

近世出雲街道のルーツか？

かみや
上相遺跡

美作市上相

岡山県古代吉備文化財センターでは、美作岡山道路の建設に先立ち、平成21年度から国道179号より北側の路線内に所在する遺跡について発掘調査を行ってきました。今年度は、美作岡山道路が中国自動車道に接続する勝央ジャンクション^{かぎたに}の建設予定地を調査しています。

上相遺跡は、前号で紹介した鍵谷遺跡^{かぎたに}の北側にあります。昭和47年に行われた中国自動車道建設に伴う発掘調査ではカマドをもつ竪穴住居や掘立柱建物などが見つかり、古墳時代後期の集落であることが分かりました。今回の調査でも、同じ時期の竪穴住居や掘立柱建物・段状遺構などを検出しましたが、このほかに中世以前のものと思われる2条の古道が見つかっています。

丘陵を東西に横断する古道は、上幅5～9m、深さ1.5～3.5mの断面V字形に掘られていて、底にはいずれも砂利が敷かれていました。この古道と並行して走る現在の道路（市道上相岡線）は、江戸時代、津山藩によって整備された出雲街道の道筋にあたっていますが、出土遺物から判断すると、この古道はそれ以前に使われていたようです。この古道がつけられた時代がいつまでさかのぼるか今回の調査では明らかにすることはできませんでしたが、近世以前の交通路について重要な知見



断面V字形に掘られた上相遺跡の古道（北東から）

を得ることができました。

ところで、この遺跡で見つかった古墳時代後期の遺構からは鉄滓がたくさん出土していて、かねてから鍛冶作業との関連が想定されていましたが、今回、それを証拠づける重要な発見がありました。

それは、丘陵の西側で見つかった鍛冶工房と思われる掘立柱建物です。斜面を大きく切り崩して造成した広い平坦地に建つこの建物は、長さ8.5 m（5間）、幅4.5 m（3間）、床面積で約40㎡もあり、この遺跡最大の規模を誇っています。床面からは、炉の可能性のある焼土面とともに、作りかけの鉄器や鉄素材の可能性のある鉄塊などが多数見つかりました。

このように古墳時代の大規模な鍛冶工房が見つかった例はきわめて少なく、鍵谷遺跡とあわせて26棟もの掘立柱建物が建つこの集落の性格を解き明かさうえで貴重な手掛かりとなりました。

（氏平昭則・河合 忍）



鍛冶工房と見られる建物（北から）

かじやぎこ 鍛冶屋途B古墳群

美作市上相

鍛冶屋途B古墳群は、中国自動車道を挟んで上相遺跡の北東側に位置する古墳時代後期の古墳群です。今回の調査では、尾根の南東斜面に並んだ2基の古墳を確認しました。

東側に位置するB1号墳は長径約10 m、高さ約1.5 mを測る円墳で、埋葬施設は南東向きに開口した全長約6 mの横穴式石室です。天井石や側壁の一部が抜き取られていますが、石室内から7世紀の須恵器や耳環、楕円形の脚をもつ亀甲形陶棺などを検出しました。

一方、B2号墳は調査中に新たに発見したもので、墳丘はすでに削平されていましたが、周溝の形状から一辺約8 mの方墳であることが分かりました。主体部は木棺直葬と見られ、長さ約80 cmの鉄刀や鉄鍬といった副葬品のほか、周溝からは鉄製鋤先や6世紀の土師器・須恵器が出土しています。

これら2基の古墳は墳形や埋葬施設が異なっていますが、今後、隣接する鍛冶屋途A古墳群や周辺の古墳群と比較検討することにより、その性格が明らかになるものと思われます。（樋口 碧）



陶棺を納めたB1号墳の石室（南東から）



コ字形の周溝がめぐるB2号墳（北西から）

岡山県の南東部、赤磐市奥吉原では、平成23年11月から平成24年10月まで、経営体育成基盤整備事業に伴い、辺谷製鉄遺跡、辺谷・成ル遺跡、水口遺跡など5遺跡の発掘調査を行いました。

このうち、辺谷・成ル遺跡は熊山山塊から北流する和田川が、吉井川に注ぎだす出口近くに形成した、比較的平坦な微高地上に所在しています。昨年度は西半部の調査を行い、古墳時代初頭の竪穴住居2軒や弥生時代・古墳時代の土坑など、弥生時代から江戸時代にかけての遺構が見つっています。

今年度は東半部の調査を行い、微高地上部では弥生時代から古墳時代の竪穴住居や土坑を、微高地東端部では弥生時代中期の木棺墓や中世の土坑墓などを検出しました。なかでも微高地中央部付近は居住地に適していたのか、限られた範囲内に弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居が繰り返し建て替えられ、10軒以上が重なって検出されました。このうち東端の直径6m程の円い平面形の竪穴住居は、北側と南側の壁に沿って長方形の穴が2基掘られていました。なお、この竪穴住居の床面では、放射状に広がる炭化材が検出されました。また、これより1.2m程西にある直径4m程の円い平面形の竪穴住居の床面には、焼土塊と共にほぼ完形に復元できる壺や甕などの土器や石器がたくさん残され、いずれも火災にあった焼失住居と考えられます。このほか、この2軒の北側で検出された、一辺5m程の平面が方形の竪穴住居では、中央穴及びその周辺から敲き石や石鏃などの石器が石くずと共にたくさん見つっています。さらにその西側では直径9mもの円い平面形を呈する極めて大形の竪穴住居が検出されるなど、様々な竪穴住居が見つっています。

これらの竪穴住居群の東側には、竪穴住居が建てられていませんでしたが、平面が長方形で少し深い土坑8基が検出されました。規模は、長さ2.2m～1.1mで幅1m前後、深さも0.9m～0.2mと様々な土坑群で、貯蔵穴等と考えています。
(内藤善史)



竪穴住居群全景（東から）



辺谷・成ル遺跡東半部（空撮、上が北）



竪穴住居の土器出土状況（北から）

津島遺跡活用事業

■ 夏休み企画☆津島遺跡で土器にふれよう！

津島やよい広場を会場として、津島遺跡で出土した弥生土器などに触れ、歴史を身近に感じる企画です。夏休み期間中の毎週金曜日、計6回の開催で247名が参加してくれました。猛暑の中、木陰で土器に触れる子どもたちの真剣な表情は一服の清涼剤となりました。



土器に触れる子どもたち

■ 津島やよいまつり

10月27日（土）・28日（日）には、5年目をむかえた秋の恒例行事である津島やよいまつりを開催しました。会場は津島やよい広場と遺跡&スポーツミュージアムで、勾玉作りやアンギン編み・火起こし・石包丁による収穫といった弥生体験、会場全体を使っのクイズラリー、弥生人に変身しての写真撮影などを実施。今回は2日間で437名が遊びにきてくれました。



石包丁による収穫体験

■ 津島遺跡ボランティア

発足3年目となった津島ボランティアは総勢21名になりました。小学生の津島遺跡見学での説明や夏休み企画・津島やよいまつりの準備と参加、津島やよい農園の整備など様々な活動を行いました。



津島やよい農園での田植え

講座「古墳時代の考古学」・講演会「古墳時代のマツリ」

講義と体験や見学を組み合わせた連続4回の講座を開催しました。30名の方が受講され、古墳時代のはじまりから終わりまでを勉強した後、^{たがひ}鞆を使った鍛冶を体験しました。第3回の講座では講演会「古墳時代のマツリ」を開催しました。県立図書館で行ったこの講演会には150名もの方が参加され、高槻市立今城塚古代歴史館の森田克行館長による「大王墓の埴輪マツリ」や岡山大学の松木武彦教授による「古墳の葬送儀礼を復元する」を聴きながら、当時のマツリの世界に思いを馳せました。

	開催日	内容
第1回	8/25 (土)	講義1：弥生時代から古墳時代へ 講義2：吉備の巨大古墳の時代 見学：センター展示室見学等
第2回	11/17 (土)	講義3：吉備における古墳時代の終焉 講義4：古墳時代の生業 実習：古墳時代の鍛冶体験
第3回	1/26 (土)	講演会「古墳時代のマツリ」
第4回	2/23 (土)	古墳見学バスツアー (赤磐市両宮山古墳ほか)



講義1の様子



鍛冶体験の様子



森田先生の講演



松木先生の講演

センターへようこそ！ —見学・職場体験学習—



今年度は小学校・中学校・高等学校あわせて29校、合計1,589名の皆さんが、当センター施設や発掘現場、津島やよい広場の見学に来られ、職場体験や総合学習にも利用していただきました。25年度も、皆さんのお越しをお待ちしています。



津島やよい広場で復元住居の見学

学校種	目的	学校数	児童生徒数
小学校	津島見学	8校	553人
	センター見学	10校	949人
	発掘現場見学	1校	24人
	計	19校	1,526人
中学校	職場体験	7校	14人
	総合学習等	1校	9人
	計	8校	23人
高等学校	総合学習等	2校	40人
合計		29校	1,589人

調査成果の発信 —普及啓発事業から—

今年度も、スライド報告会、現地説明会や発掘現場の現地公開、3回の企画展など、様々な普及啓発事業を実施しました。現地説明会・現地公開は4遺跡で行い、のべ2,191名の方々にご参加いただきました。各種イベントにご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

そのほか、びぜん一宮桃太郎フェスティバル(7月29日)、中山中ふれあいサタデー(10月27日)、福田っ子ふれあいまつり(11月17日)、沢田柿まつり(11月18日)など、地域や学校の催し物にも出展し、遺物の展示や体験学習を実施しました。来場された方々は、実物の土器や石器を間近に眺めたり、勾玉作りや土器パズルに挑戦したりして、楽しみながら地域の歴史への関心を深めておられました。



びぜん一宮桃太郎フェスティバル



福田っ子ふれあいまつり

謎の鬼ノ城 発掘調査報告会

平成18年度から7年間にわたって実施された「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」城内確認調査事業は、平成24年度の報告書刊行をもって終了します。これにあわせて、古代山城研究会代表の向井一雄先生、岡山理科大学生物地球学部教授の亀田修一先生をお招きし、岡山県立美術館を会場に、3月2日（土）に発掘調査成果報告会「ここまで分かった鬼ノ城」を開催しました。

報告会ではまずセンター職員が、城内で検出された遺構（礎石建物・鍛冶工房・土手状遺構など）、出土した遺物（須恵器・土師器など）の双方から、調査成果を総括する報告を行いました。

続いて向井先生が「古代山城研究における鬼ノ城調査の意義」と題して講演され、古代山城に関する最新の調査研究成果を紹介されるとともに、鬼ノ城の調査成果のもつ重要性を指摘されました。

パネルディスカッションでは、亀田先生をコーディネーターに、鬼ノ城の築かれた時期や、築城の主体者、築城の目的といったテーマについて意見が交わされました。参加者の方々からは熱心な質問も寄せられ、県民の皆さんが鬼ノ城に寄せる高い関心がうかがえました。

7年間のご声援、
ありがとうございました！



うら坊三兄弟



みこっちゃん

センター収蔵品紹介 vol.13 ー岡山城二の丸跡出土の蒔絵鉢ー

この蒔絵鉢は、平成6年の中国電力内山下変電所建設に伴う発掘調査で出土しました。調査地は、岡山城二の丸内でも大手門に隣接し、城の防衛できわめて重要な地点にあたります。江戸時代の『慶安絵図』（1648～1652）によると、池田伊賀守という二万二千石取りの家老屋敷でした。

蒔絵鉢は、調査地全体をおおった砂層の中から出土しました。砂層は、その規模や周辺の調査成果から、承応3（1654）年に岡山城下を襲った洪水が押し流してきた砂が堆積したもののようです。

この鉢は耳盥みみだらいと言ひ、女性がお歯黒をする時に使ったものです。外面の蒔絵は、黒漆の地に金の平蒔絵で菊・萩・桔梗ききょうを描いたもので高台寺蒔絵こうだいじに相当します。高台寺は豊臣秀吉の菩提ぼだいを弔うため北政所ねねが建立した禅寺です。その建物の内部や調度品にみられる、それまでの型にはまらない斬新なデザインの蒔絵を高台寺蒔絵と呼んでいます。蒔絵鉢も同様の特徴を持つ工芸品の一つと言えます。

この鉢、よく観察すると割れた部分を漆で接合して修復した跡があります。長い間大切にされた品だったので、わざわざ直して使っていたのでしょう。愛着のほどがうかがえます。

（氏平昭則）



岡山県では、平成23年3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北3県の復旧、復興支援のために様々な部署で職員派遣を行っています。

埋蔵文化財保護関係についても、宮城県教育庁文化財保護課へ1名の埋蔵文化財専門職員が派遣され、震災復興事業に伴う遺跡の発掘調査にあたっています。これは、復旧復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との整合を図るための文化庁、被災3県、および他の都道府県、政令指定都市をはじめとした全国的な協力体制の一環です。このような取り組みは平成7年の阪神大震災のおりにも実施され、岡山県からも兵庫県へ3年間にわたり毎年職員1名を派遣していました。

そして今回の大震災を受け、埋蔵文化財保護のための復興支援として平成24年4月から岩手県に10名、宮城県に9名、福島県に1名の計20名の専門職員が全国の都道府県・政令指定都市から派遣され、10月からはさらに宮城県17名、福島県5名に増員され、総計32名が支援職員として各県で業務に従事しています。また、今後少なくとも5か年にわたり3県へ70名余の埋蔵文化財専門職員派遣が行われる見込みです。

現在、被災3県では、①事業計画地を遺跡から外す事前調整 ②盛土保存など弾力的な遺跡の取り扱い ③全国からの専門職員派遣によるマンパワーの拡充 ④最新デジタル技術活用による調査期間の短縮 を主な柱として埋蔵文化財を保護しつつ、復興事業を円滑に進めるために全力で取り組んでいます。

岡山県から宮城県に派遣された筆者は、4月から12月まで県南部亘理郡山元町わたり ぐんやまもとちょうにおいて、復興アクセス道路として早期開通が期待される常磐自動車道建設に伴い、宮城県職員と神奈川県から派遣された職員の方とともに計8遺跡の発掘調査を担当しました。これらは、主に奈良～平安時代の製鉄関連遺跡とそれを支えたと推測される集落遺跡の調査となりました。特に製鉄遺跡は宮城県内でも調査例が少なく、この時代に中央政権による東北支配のために欠かせない鉄作りが県南部で行われていた実態を解明する貴重な成果を挙げる事ができました。また1月には県北部石巻市雄勝町おがつちょうにおいて防災集団移転事業に先立って、沿岸部の縄文時代の貝塚隣接地の試掘調査も行いました。

今、何よりも求められるのは単なるモノの復旧復興ではなく、そこで暮らすことのできる地域の創出です。そのためにも全国から被災地へ多数の専門職員が集まり、地元の専門職員に協力し、やむなく壊される埋蔵文化財を迅速に記録として残し、そこから描写される地域像を余すことなく伝えていかなければなりません。この東北の地でこれまで受け継がれ、守られてきた歴史と文化遺産を途絶えることなく希望ある将来へと継承することが、この地ふるさとの本当の再生・復興につながるのではないのでしょうか。

この復興支援事業について、派遣された職員からの便りを今後もセンターから発信していきます。現在の東北の状況について、そして遺跡の発掘調査の様子について関心をもって、これからも引き続き被災地の復興を応援していただければと思います。
(大橋雅也)



かみみやまきた
山元町上宮前北遺跡の製鉄炉の調査



たつはま
石巻市雄勝町立浜貝塚隣接地の試掘調査

平成24年度各課事業一覧

〈試掘・確認・発掘調査〉

課	遺跡名 (所在地)	調査原因	種別	調査の内容・成果	調査期間 調査面積
調査第一課	名称未定(赤坂町No.93散布地) (赤磐市大屋)	広域営農団地農道整備事業 (備前東部地区)	確認	3か所のトレンチを設定。 弥生時代の包含層を確認。 遺構確認されず。	6/21~6/28 22㎡
	特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡 (岡山市北区後楽園)	特別名勝岡山後楽園烏帽子 岩整備	確認	1か所のトレンチを設定。 烏帽子岩基礎部の状況を確認。	7/2 1.8㎡
	鹿田遺跡 (岡山市北区鹿田本町)	岡山県精神科医療センター 児童外来新築	確認	1か所のトレンチを設定。 遺構確認されず。	9/18~9/20 4.5㎡
	重要文化財(建造物)旧閑谷学校石垣 (備前市閑谷)	重要文化財(建造物)旧閑 谷学校石垣修理工事	確認	3か所のトレンチを設定。 石垣の根石と裏込めの状況を確認。	9/25~9/26 1.8㎡
	未周知 (岡山市中区神下地先)	旭川放水路(百間川)護岸 工事	試掘	4か所のトレンチを設定。 中世の水田を確認。	10/1~10/5 24㎡
	総社遺跡、総社条里、刑部遺跡 (総社市総社・刑部)	一般国道180号改築(総社・ 一宮バイパス)工事	確認	16か所のトレンチを設定。 弥生時代後期ほかの溝3条を確認。	1/15~2/12 99㎡
調査第二課	辺谷・成ル遺跡、水口遺跡、水口・成ル遺 跡、満願寺遺跡 (赤磐市奥吉原)	経営体育成基盤整備事業 (奥吉原地区)	全面	辺谷・成ル遺跡で弥生時代の竪穴 住居や木棺墓、古墳時代の竪穴住 居、中世の土坑墓などを確認。 水口遺跡で弥生時代の竪穴住居、 中世の掘立柱建物などを確認。	4/1~10/31 2,352㎡
調査第三課	特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡 (岡山市北区後楽園)	岡山後楽園史跡整備事業	全面	江戸時代の御舟入の諸施設(雁 木・護岸石垣・土留め石垣・通路・ 土手など)を良好な状態で検出。	4/2~7/11 416㎡
	鍵谷遺跡、上相遺跡、鍛冶屋途A・B古墳 群、鍛冶屋途C遺跡、小中古墳群 (勝田郡勝央町岡、美作市上相ほか)	一般国道374号(美作岡山道 路)道路改築	全面	上相遺跡で古墳時代後期の掘立柱 建物群・中世の古道2条、鍛冶屋途 A・B古墳群で弥生時代中期の竪穴 住居と古墳時代後期の古墳群・製鉄 炉等を確認。	4/1~3/31 7,062㎡

〈報告書作成・刊行〉

課	報告書作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)
調査第一課	史跡鬼城山	県報告236(史跡 鬼城山2)
調査第二課	宮原遺跡ほか、奈良井遺跡、百間川原尾島遺跡ほか、水口・成ル遺跡ほか	県報告237(宮原遺跡 奈良井古墳 奈良井遺跡)
調査第三課	特別名勝岡山後楽園、小池谷遺跡ほか	県報告238(特別名勝岡山後楽園 史跡岡山城跡)

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30~PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00~PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

なくしていこう、差別・偏見・いじめ